

# 岡山市表町商店街における歩行者・自転車の共存をめざした社会実験\*

## An Experiment Aiming at the Coexistence of Pedestrians and Bicycles at the Central Shopping District of Okayama City \*

田中聡\*\*・兵頭良一\*\*\*・新谷雅之\*\*\*\*・阿部宏史\*\*\*\*\*・北瀬弘康\*\*\*\*\*

By Satoshi TANAKA\*\*・Ryoichi HYODO\*\*\*・Masayuki SHINTANI\*\*\*\*

・Hirofumi ABE\*\*\*\*\*・Hiromichi KITAMA\*\*\*\*\*

### 1. はじめに

本研究の対象区域となる表町商店街(図-1)は「都心1kmスクエア」と呼ばれる岡山市の中心市街地に位置し、岡山城の城下町に形成された南北約800mのアーケード商店街であり、沿道には大型百貨店を核として大小の商店が立地している。

岡山市は、温暖で晴天の多い気象条件や起伏の少ない地形条件などから、地方都市の中では有数の自転車利用都市<sup>1)</sup>である。そうした中、表町商店街では歩行者と自転車の輻輳による自転車事故の危険性や不法駐輪の常態化などが問題となっていた。一方で、自転車利用客の商店街離れを危惧して、これまでは厳しい規制や取り締まりは実施されてこなかった。

また、表町商店街では歩行者通行量の減少<sup>2)</sup>や空き店舗の増加などによる賑わいの低下が問題となっている。

こうした背景の中、商店街に設置された目安箱の約8割が自転車乗り入れに対する意見であったことや地元新聞で不法駐輪等が取り上げられたことを契機として、地元NPOが商店街・行政等と歩行者・自転車の共存に関する協議会を立ち上げ、自転車利用環境改善とおもてなし空間の創出によるにぎわい向上をめざした社会実験を実施するに至った。

本論文では、社会実験の概要を述べるとともに、自転車・歩行者交通量の変化、駐輪場の利用状況、来訪者及び商店主の意識調査の結果から、実験効果と課題を検証した。

\*キーワード：歩行者・自転車交通計画、交通行動調査、交通意識分析

\*\*正員、株式会社ウエスコ(岡山市北区島田本町2-5-35、TEL086-254-2440、E-mail:satoshi.tanaka@wesco.co.jp)

\*\*\*非会員、株式会社ウエスコ(同上)

\*\*\*\*NPO法人まちづくり推進機構岡山代表理事(岡山市北区石関町2番1号、TEL086-803-3361)

\*\*\*\*\*正員、工博、岡山大学大学院環境学研究科(岡山市北区津島中3-1-1、TEL086-251-8849、E-mail:abel@cc.okayama-u.ac.jp)

\*\*\*\*\*非会員、工修、国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 計画課(岡山市北区富町2-19-12、TEL086-214-2310)



図-1 実験位置及び対象区間

### 2. 社会実験の概要

#### (1) 実験目標及び実施方針

本社会実験では『歩行者・自転車の“共存”による魅力的な商店街づくり』を基本目標と設定し、以下の3つを実施方針とした。

- 自転車乗り入れ抑制(自転車事故対策)
- 不法駐輪の解消
- おもてなし空間の創出

#### (2) 実験実施の着眼点

他都市では、自転車事故対策として自転車進入禁止規制や歩行者・自転車の空間的な分離等が実施され、不法駐輪対策として路外駐輪場の整備や既存有料駐輪場の無料化等が主たる施策として実施されている。

表町商店街の場合、自転車事故対策では「自転車も大事なお客様」であるとの認識から厳しい規制の実施が難しいため、利用者の自発的な乗り入れ抑制が必要であった。そのため、自転車走行に対する障害物の設置が有効であると考えられた。また、不法駐輪の解消では、商店街内に新たな路外駐輪場の確保が困難なことから、商店街の路上に駐輪場を設置することが有効であると考えら

れた。こうしたことから、本実験では歩行者と自転車の共存を図る手法の一つとして、それぞれの対策の組み合わせを試みた。具体的には、商店街内の路上を駐輪場として利用することで自転車利用客の利便性を高めるとともに、不法駐輪を解消し、かつ、路上駐輪場を障害物として配置することで、自転車乗り入れを抑制するという新たな試みである。さらには、来訪者のくつろぎとしてベンチを障害物にすることで、おもてなし空間の創出を図った。

また、駐輪場用地の不足を補うために、空き店舗や通路を活用した駐輪場を設置した。

### (3) 実施内容

本実験の実施概要を表-1に示す。なお、各施策の概要は以下の通りである。

#### a) 看板設置 (図-2)

以下に示す3つの効果を期待して、各町の入口(主たる道路との交差点)付近に看板(計18ヶ所)を設置した。

- ・幅員減少による乗り入れ抑制
- ・乗車車両(通過交通)に対する他路線への誘導案内
- ・実験実施のPR

#### b) 仮設駐輪場設置 (図-3、図-4)

以下に示す2つの効果を期待して、「路上」及び「空き店舗・通路」に仮設駐輪場(合計22箇所、297台)を設置(図-6)した。実験計画では、事前の不法駐輪台数調査をもとに配置及び台数を設定するとともに、路上の中央部に設ける仮設駐輪場については、道路構造令の歩行者専用道路の考え方に準拠して片側2m以上、合計4m以上の歩道幅員を確保(図-7)した。なお、路上駐輪場の設置にあたっては、道路占用及び道路使用許可を申請した。

- ・幅員減少による乗り入れ抑制
- ・不法駐輪解消

#### c) ベンチ設置 (図-5)

以下に示す2つの効果を期待して、原則として路上仮設駐輪場の両端にベンチを配置した。なお、ベンチの設置により路上仮設駐輪場の無秩序な拡大防止の効果も期待することができる。

- ・幅員減少による乗り入れ抑制
- ・来訪者に対するおもてなし(くつろぎ、景観)

表-1 実験実施概要

期間	2009年1月14日(水)～3月1日(日)の47日間 (商店街の定休日にあわせて火曜日は休み)
時間	10時～19時 9時間 (商店の開店・閉店時間にあわせて時間設定)
区間	表町商店街(「上之町」「中之町」「下之町」「栄町」「紙屋町」の5つの商店街で構成)
施策	「看板設置」「仮設駐輪場設置」「ベンチ設置」



図-2 看板



図-3 路上駐輪場



図-4 空き店舗駐輪場



図-5 ベンチ

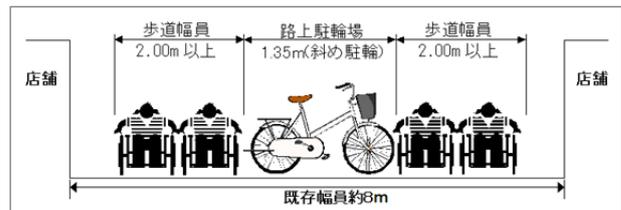


図-7 路上仮設駐輪場断面構成

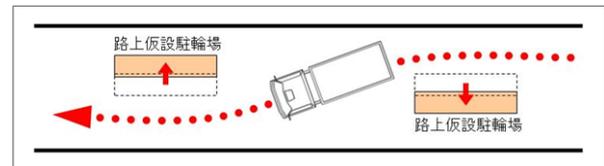


図-8 路上仮設駐輪場のスラローム

### (4) 実施に伴う配慮

#### a) 車両通行への配慮

路上仮設駐輪場の設置では、緊急車両の通行や搬出入車両の進入などへの対応が必要であったことから、「スラローム状の配置(図-8)」「テープによる駐輪区画の明示」「19時以降の駐輪自転車、ベンチ、看板の移動(周辺店主の協力)」などに配慮した。

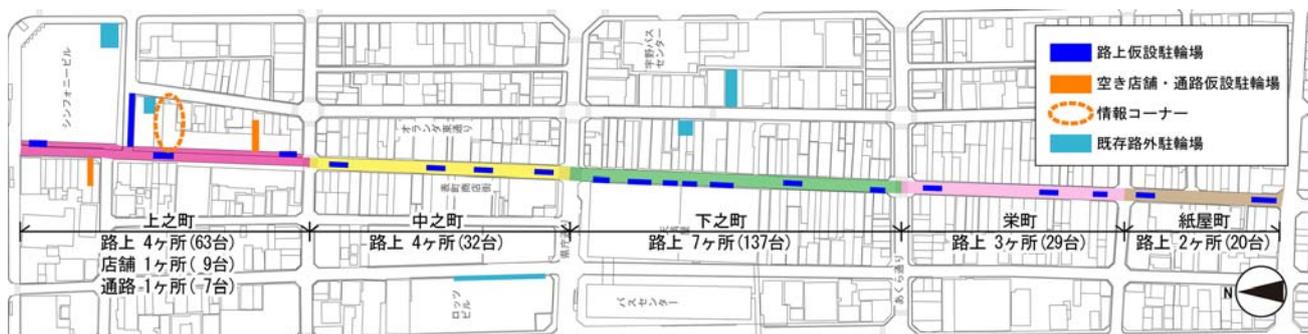


図-6 仮設駐輪配置図

b) ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン（以下「UD」という）に配慮した看板やベンチを配置した。なお、実験期間中にUDの観点から商店街の歩行点検を実施したところ、路上駐輪自転車への衝突防止として、ベンチの設置に対する高い評価が得られた。

c) PR

社会実験のPRとして「イベントWS（一部ベンチのペイント等）」を開催し、岡山県のPRとして「県内作家による県産材を使用したベンチ」を配置した。

3. 調査結果

(1) 調査概要

自転車・歩行者交通量の変化、駐輪場の利用状況、来訪者及び商店主の意識を把握するため、以下の3つの調査を実施した。

a) 自転車・歩行者交通量調査

実験実施時間の10時～19時を対象に、実験前及び実験前半の平日各2日間において、上之町、中之町、下之町、栄町の4断面と中之町周辺3路線の計7断面で自転車の乗車・降車別交通量及び歩行者通行量を調査した。なお、事前の現地踏査より、栄町と紙屋町には顕著な相違がみられなかったため、調査箇所は栄町の1断面とした。また、実験期間中の変化を確認するため、歩行者交通量が多い12時～17時を対象に、実験後期（平日）において、中之町、下之町、栄町で簡易調査を実施した。

b) 駐輪台数調査

表町商店街及び周辺路線の不法駐輪台数調査、既存路外駐輪場の毎時駐輪台数調査を実施した。また、実験前半では、仮設駐輪場の駐輪台数調査を実施した。

c) アンケート調査

実験対象区間の来訪者及び沿線の商店主を対象にアンケート調査を実施した。具体的には「自転車の押し歩き」「歩行者の快適性」「路上仮設駐輪場の設置」「ベンチ設置」「表町商店街の雰囲気」「施策の継続性」に関する設問を設定し、来訪者は現地におけるヒアリング、商店主は各町理事長を介した調査票の配布・回収による調査を実施した。なお、来訪者の有効回答数は269人、商店主の有効回答数は147人（回収率約7割）であった。

(2) 調査結果

a) 自転車利用者

図-9によれば、全ての地点において乗車率の減少が確認され、最大で14.9ポイントの減少が確認された。町別の乗車率をみると、中之町・下之町では4割未満であるのに対し、上之町・栄町では5割超であった。

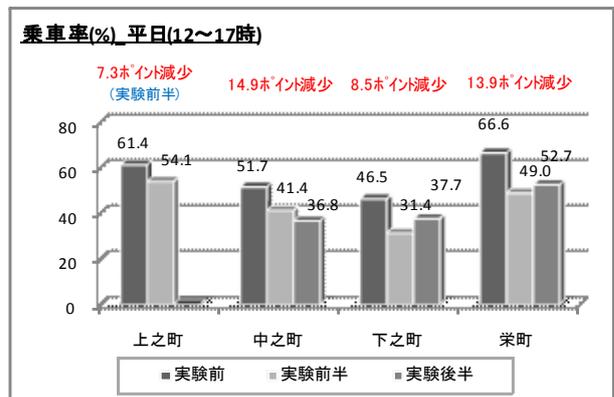


図-9 自転車乗車率

Q. 実験前に比べて自転車を押している人が増えたと思いませんか？

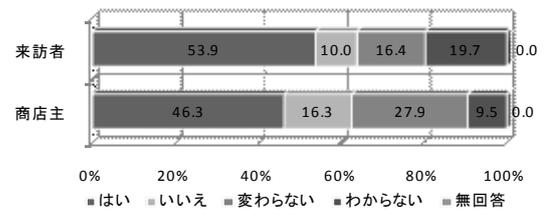


図-10 自転車の押し歩き（来訪者・商店主）

Q. 実験前に比べて安心して歩けるようになった、快適性が増したと感じられますか？

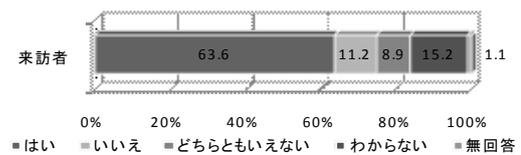


図-11 歩行者の快適性（来訪者）

Q. 今回の社会実験のように、路上に駐輪空間を設けることについて、どのように感じられますか？

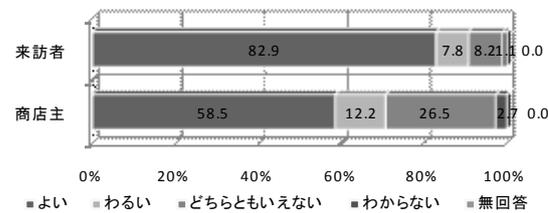


図-12 路上仮設駐輪場設置（来訪者・商店主）

さらに、図-10によれば、約5割の来訪者及び商店主から「実験前に比べて自転車を押して歩いている人が増えた」という回答が得られた。

また、周辺路線の自転車交通量調査からは、乗車車両の流出に関する顕著な変化は確認されなかった。

b) 歩行者利用

図-11によれば、6割超の来訪者から「実験前に比べて快適性が増した」という回答が得られた。

また、歩行者通行量調査からは、歩行者の流入・流出に関する顕著な変化は確認されなかった。

c) 駐輪

駐輪台数調査から、仮設駐輪場は平日で約8割、休日で約7割の利用が毎時確認された。さらに、図-12によれば、8割超の来訪者、約6割の商店主から「路上に駐

輪場を設けることはよい」という回答が得られた。

また、周辺路線における不法駐輪台数及び既存路外駐輪場の利用台数に顕著な変化は確認されなかった。

d) その他

図-13によれば、約8割の来訪者から「ベンチをこれからも設置した方がよい」という回答が得られた。

図-14によれば、約5割の来訪者から「表町商店街の雰囲気が良くなった」という回答が得られた。

図-15によれば、8割超の来訪者、7割超の商店主から、これらの施策を「今後も継続した方がよい」という回答が得られた。

#### 4. 実験効果検証

調査結果をもとに、本社会実験における3つの実施方針「自転車乗り入れ抑制」「不法駐輪の解消」「おもてなし空間の創出」の効果を検証した。

a) 自転車乗り入れ抑制

自転車乗車率が減少し、周辺への流出もみられなかったことから、看板や駐輪場、ベンチなど障害物の設置が自転車の降車を促し、来訪者の意識醸成に対して一定の効果を得られた。一方で、依然として4～5割程度の乗り入れがみられることから、歩行者通行量を含めた障害物の配置密度の検証や恒常的な施策の実施による一層の意識啓発が必要であると考えられる。

また、本実験では、利用目的や利用者層による乗車率の違いが感じられたことから、今後はこれらを検証し、対策を講じることが必要と考えられる。

b) 不法駐輪の解消

仮設駐輪場の設置により、不法駐輪台数が減少した。さらに、来訪者及び商店主ともに高い評価を得たことから、商店街の利便性向上による賑わいの創出にも寄与することが期待できる。しかし、駐輪場の設置による自転車利用客の増加を考慮すると、本実験の様に、不法駐輪対策と自転車事故対策を総合的に実施することが必要と考えられる。

c) おもてなし空間の創出

駐輪場設置による利便性の向上やベンチ設置によるくつろぎ空間の創出など、おもてなしに配慮した空間づくりが来訪者から高い評価を得た。一方で、歩行者通行量や来客数に顕著な変化が確認されなかったことから、施策の実施と歩行者通行量の関係性は本実験で明らかにはできなかった。しかし、来訪者の意識調査結果がどの項目も高い評価を得ていることを踏まえると、施策を継続していくことで歩行者通行量が増加し、さらには賑わいの向上にも寄与することが期待できる。

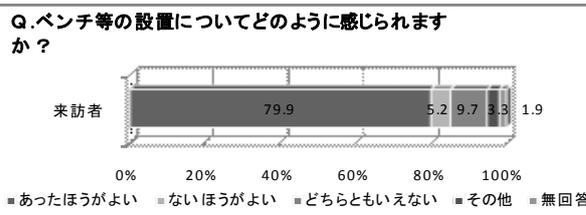


図-13 ベンチ設置 (来訪者)

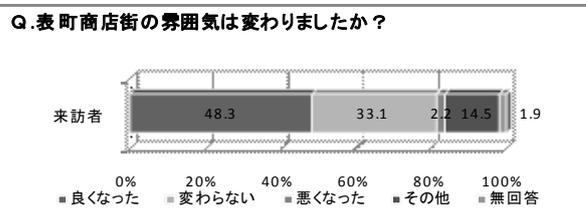


図-14 表町商店街の雰囲気 (来訪者)

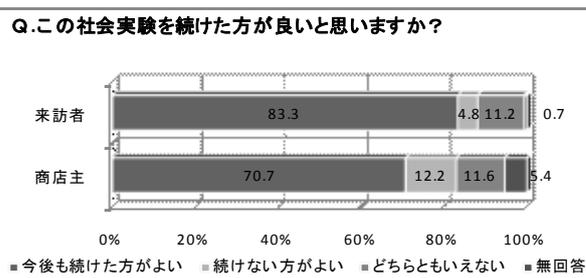


図-15 施策の継続性 (来訪者・商店主)

#### 5. おわりに

本論文では、表町商店街における歩行者・自転車の共存をめざした社会実験について、その効果を検証した。最後に、本研究の成果と今後の課題を整理する。

本社会実験では、自転車乗り入れ抑制や不法駐輪解消、おもてなし空間創出の対策を個々に実施するのではなく、商店街の路上に設けた駐輪場やベンチを自転車走行に対する障害物として活用するといった複合的な施策を実施した。その結果、それぞれの問題に対して効果が得られただけでなく、自転車の利便性、歩行者の快適性がともに向上し、歩行者・自転車が共存する空間を創出することができた。

今後、恒常的な施策の実施に際しては、路上駐輪場設置に係る費用や日常の管理に係る労力の確保などの課題が生じるため、商店街の主導性が必要であると考えられる。さらに、様々な課題の解決には、行政・警察だけでなく、NPO・市民など多様な主体の協力が必要であると考えられる。

#### 参考文献

- 1) 阿部宏史他：地方都市における自転車利用環境の整備が通勤交通に及ぼす影響、土木計画学研究・論文集、No. 17、pp. 789-795、土木学会、2000年
- 2) 岡山市経済局経済企画総務課：「岡山市商店街通行量調査」